

諮問事項 ～新しい生活様式を踏まえた狛江市立公民館事業のあり方について～

ソフト面 制度やサービスに関すること	ハード面 設備や備品に関すること	事業面 教室や講座に関すること
市全体の生涯学習、社会教育の明確な答えを導き出す ※市における「公民館」の立ち位置を明確にする	若い世代を取り込むようなカフェルームの設置 例) あいとびあセンター1階にあった「夢(むー)」のような場所	交通マナー、自転車の乗り方等を学べる教室 ※子どもだけではなく、親子を対象とすることが重要。子どもは親の後ろ姿を見て学習する。
生涯学習、社会教育という分野において、高いスキルを持った職員の確保	脱、ハウス ※テレワークの際に、家族がいると集中できない方向け 等	今後の公民館事業をSDGsの理念に沿って具体的に企画実践する。 国連のSDGsを基本理念として17課題の内、以下の5課題を選択した
公民館の意義を市民にわかりやすく示す ※アンケートで「公民館は何をする場所かわからない」を選択する回答者が多くいるため	コピーを手軽に使い易く、ぬり絵コーナーの設置 ※ぬり絵は世代を選ばずに人気である	テーマ① 健康的な生活を確保し福祉を推進する(SDGsNo.3) テーマ② 生涯学習 機会を促進する(SDGsNo.4) テーマ③ ジェンダーイコリティを達成する(SDGsNo.5) テーマ③ すべての人に水と衛生へのアクセスと管理を確保する(SDGsNo.6) テーマ④ 都市と人間の居住地を安全にする(SDGsNo.11) テーマ④ 気候変動の影響による緊急対策(SDGsNo.13) テーマ⑤ 海洋資源に関する保全に関する課題(SDGsNo.14)
申請、予約はLINEを活用する 例) 新型コロナのワクチン接種予約、道路や公園に関する通報等	プチ幼児教室 ※同じ世代の親が集まり、先生から教えてもらう	
「生涯学習」と「社会教育」の使い分けを明確にする ※「生涯学習」の視点に立った場合、団体のみでの使用となりがちだが、個人でも使えるようにする	防災設備や場所等の見学会を催す(同時に防災訓練も行っても良いと思う)	
新しい生活様式＝「若者が参加しやすい公民館」になるために、どうすべきかを検討し、実践していく	理科室(実験)を作る	子どもたちに「好奇心」を持たせて成長を促す。 大前提として知識、教養、情操を基礎としつつ、考える力、発想の多様性を育む。 例) 子ども達に狛江の将来像を自由に述べてもらう、子どものうちから他者と議論をする、子ども実験教室
小・中学生、高校生、大学生、社会人が参加しやすい時間(平日夜間や土日)をうまく活用したシステムの構築 例) 抽選申込みが重なった場合、若者を優先する 等	困ったさんの味方、何でも解決!(育児、掃除etc.) ※「公民館に来れば、誰かが教えてくれる」と思ってもらえれば、来館者も増える	
子ども達にあるテーマを与え、自由に述べ合う、発想、思考の多様性 ※学校では自分で考える力を養う授業が少ないので、公民館がその役割を担う	小さな博物館を作る→展示コーナー 狛江市の史跡、発掘がかなりあるので… 史跡について語れる専門家がいるので、説明も十分に出来る	子ども達の読書会 読書の感想を述べ話し合う 書籍はクラシックなもの、新しいものなど 「命を守る」をテーマとした絵本購入
	Wi-Fi環境の利用制限(時間制限やサイト閲覧制限等)は可能か?	「命を守る」と言うテーマに基づいた講座の新設。特に小～高校生向き(小学生向き・中学生向き・高校生向き)
	各公民館で、特化した機能を持たせる 例) ビデオが視聴できる部屋、展示スペース 等	「地球温暖化」について考える講座を持つ(小学生向き講座・中学生向き講座・高校生向き講座・社会人向き講座)
	可動式の仕切りで学習スペースを作る ※来館者の人数に応じて、スペースを分割できるような仕組み	